

神奈川県山梨教会連合会たより

かりん

「お繰り合わせ」

光治先生は、昭和四十年十一月七日生まれ。國學院大學を卒業後、平成二年に金光教学院に入学、翌平成三年に卒業・教師補命。平成十七年に教子さんと結婚され、一男一女を授かります。平成二十七年二月、前教会長より命をうけて子安教会の教会長に就任されました。

○先代の喜實雄先生が亡くなられたのが平成二十七年七月二日とのこと。お元氣だったのに急に亡くなられた印象だったのですが、ご病氣があったのですか？

光治先生（以下…光）…肺腺ガンでした。平成二十五年九月、いつも健康で医者嫌いの父が、珍しく「少し体調悪いから、点滴でもしてもらってくるよ」と、近くの町医者に行きました。そこでレントゲン検査をしてもらったら「村田さくん、左の肺がなくなってるよ！」と言われたそうです。左の肺の下半分程が、水が溜まって写ってなかったと。そこから大きい病院にまわされ、そのまま入院になりました。
○病状は重かったのですか？
光…担当の先生は、肺に溜まった水が抜け

ないと病氣が何か分からないと前置きしながら、いくつかの原因の候補を挙げてくれました。三日程して水が抜け、結果やはりガンが原因だということが分かりました。父もうすうす感じていたそうです。
○シヨックだったのではないですか？

川でスベって山でコロんで…とってきました

Interview

第42回 子安教会 村田光治先生



光…暫くはシヨックでしたが、でも、肺の水が抜けると退院になり、月一回、抗ガン剤を投与しに病院に行く以外、日常と変わらない生

活に戻ったので、こちらも落ち着きました。普段と変わりなく、日々御用をさせていたいただき、夕飯時には晩酌もしていました。

○教会長を生前に交代したのは、病氣になったからですか？
光…そうではなくて、実はガンが判明する一年前（平成二十四年）くらいに、「私が七十五歳になる時に、あなたは五十歳か。キリが良いからその時に教会長を交代し

よう」という話になったことがありました。でも、病氣が見つかった後、すぐに交代という話はありませんでした。

そしてガンが見つかった翌年（平成二十六年）の年末、月例霊祭時に「年が明けたら七十五歳にならせていただくので、これを機会に教会長を交代します」と皆さんにお伝えしました。しかしその一週間後の歳末感謝祭の時、「やっぱりもう二年、喜寿までさせていただく」と言い出しました。思わぬことに驚きましたが、普段なら、気持ちが途切れてしまいがちな私も、この時はもう二年、教会長になったつもりで気持ちを持続させていたどころか思いました。

そして、年が明けて元日祭、身体が自分（父）が思うように動けなくなると感じたといいことでしたが、やはり交代するということになり、手続きを進め平成二十七年二月十七日にご承認をいただき教会長とならせていただきました。この顛末を振り返ると、神様はよくよく私のことをお分りの上での道をつけてくださったのだなあと思わされます。

その後暫くは祭典でお装束をつけて御用していましたが、五月の大祭が最後の祭員の御用となりました。そして六月に入つて急に症状が進み、七月に亡くなりました。○ギリギリまで御用されていたのですね。七月に亡くなられてからの教会長としての御用、大変ではないですか？

（4ページ中段へ）

教師信徒共励会が開かれました

H28.9.4 丸子教会

丸子教会で九月四日、今期、二度目の教師信徒共励会が開催されました。丸子教会のお広前に隙間なく並べられた椅子が埋まるほど集った教師、信徒の方達とともに、和やかに進められました。

先ず発題として、鎌倉教会の信徒お二人にお話をいただきました。はじめに伊藤かおるさんがご自身の体験として、心筋梗塞と脳梗塞を併発されましたご主人の母親の介護についてお話し下さいました。自身も更年期を迎えるお体で心身ともに疲れ果てる中、お広前に居らせていただきたくいと

鎌倉教会の先生にお電話され、食事も喉を通らなくなっていたにも関わらず、先生からいただいたプリンを食べ、気持ちもお広前にいることで落ち着き、そのことが改めて介護を前向きに捉えられるきっかけとなったそうです。介護など、生活の中で様々な苦難に向き合わな



発題者の伊藤かおるさん

ればならない中、身近に教会があること、またお広前に居らせていただけることの有り難さとともに、神様に支えられる信心に気が付かせていただいたとお話しされました。

その後、連合会信徒部でもご活躍されている吉岡裕子さんが、普段から何事もなく日々生活できることの有り難さをその時々にご主人と話されていること、またそれに対して、昨今、国内外を問わず様々に繰り返される災害、原発事故などの被災に遭われ、普段の生活ができない方々たちの回復をいつも祈られていることをお話いただき、またご主人が複数の病を抱えられた時にも、お届けを欠かさないことで、神様から安心をいただき、またその時々にご都合もいただけた有り難さに対する感謝の思いを



発題者の吉岡裕子さん

伝えられました。

それぞれのお話をいただいた後、二班に分かれて懇談が活発に行われました。一班では、伊藤さんのお話を受けて、それぞれが主に様々な介護にまつわる経験等を巡ってお話いただき、また福田先生からそうした経験を伝えてい

かけがありました。

締めくくりの挨拶として、連合会副会長である大塚東子さんが、自身のクモ膜下出血を患った体験についてお話しいただきました。普通なら時期的に回復の見込みが薄かった病に対して、様々なご都合によるおかげをいただいたことを通して、改めて神様の存在を確信したこと、またその気付きについて、できるだけ多くの方に伝えたい旨をお話しされました。

今回の共励会を通して、現在の社会及び生活に於ける様々な難儀に対して信心を持ちながら向かい合うことの大切さに改めて気づかせていただけた会になったように思います。

(鶴見教会 櫻井智行)



鶴見教会で「女性のつどい」

今年も10教会、34名の参加で女性のつどいが開かれた。1年に1回ではあるが、多くの人たちと顔を合わせ、じかにお話を聞かせていただくことができ感謝ばかりである。

今回は、中村洋子さんから、学習障害の息子さんとの壮絶な闘いを、また、内田政宏さんからは、日頃の信心の取り組みを聞かせていただいた。

中村さんは、これまで悩み苦しんできたことがお役に立つのであればとの思いで、その頃のことを赤裸々に語ってくださった。当時は、学習障害についてはほとんど知られていなかった。今ではマスコミでも取り上げられるようになって、少しは理解されるようになったとはいえ、まだまだ対応はついていない。そういう意味でも、貴重な学習となったのではないだろうか。

中村さんも、再婚した方の息子さんに出会い、することなすことが普通にいかないことが次々と起こり、学校や行政、精神科などを訪ね歩いたが、傷付くことばかり言われ落ち込んでいったそうだ。そのうちに学習障害であることがわかり、ひとつひとつのことを毎日教えるしかなかったと言われる。その間の苦しみ悩みはいかばかりかと思われのだが、そんな中で、これまで全て自分の力で生きてきたと思っていたが、親の立場、子の立場になつてみて、みんなのお蔭で今の自分があることに気付かされた。そして、今では辛かったこと苦しいことも話せるようになったと語られた。

内田さんは、肺ガンを患い今も治療中と伺って

いたが、お見受けする限りそんなことを感じさせなく、びっくりするほどお元気で生き生きとされていた。

内田さんは、人生のベテラン、信心のベテランの方であるのに、自分は良い信者であるかどうか自信がないと言う。そしていつも信心とは何かと問いかけられているように思われた。教会では、『金光大神』の読み合わせを提案し、先生、信者さんとともに勉強会をしているということだった。そして、みんなに嫌われても神様が喜んでくださることをしなさいという教えを心に抱いて過ごされている。

とにかく、年を重ねると、自分が自分となるどころだが、いつも神様の思いにそっているかどうかを問いつつ過ごされているように思われ、すがすがしい気持ちにさせられた。来年もまたお会いしましょう。

(鎌倉教会 吉岡裕子)

内田政宏さん



中村洋子さん

「金光教ビジネスセミナー」実施報告

九月十一日(日)午後一時から四時半まで、神奈川県山梨教会連合会布教研修部主催の標記セミナーが、「自己流から脱皮した『しなやかなリーダーシップ』』というテーマで開催され、現役世代(六十才以下)が十三人、オブザーバー(六十五才以上)が五人参加しました。現役世代には、若手の先生四人の参加もいただき、意味のあるセミナーとなりました。

金光教ビジネスセミナーは全国信徒会、関東教区信徒会、東京都教会連合会等の主催により開催されており、神奈川県山梨教会連合会が主催したのは初めてでした。このセミナーの講師は、いづれも高橋章浩さん(日本橋教会信徒)で、「人材(人材)育成」の専門家として全国的に幅広く活躍されている方で、気楽な雰囲気の中で内容のある意義深い時を過ごさせていただきました。

今回のセミナーは、バズルでスタートし、「好きなリーダー」の個人名を挙げて発表しながら自己紹介し、「リーダーシップって何だろう」「組織が期待しているリーダーとは」という講師の話を参考に、3グループからの「あるべきリーダーシップ」についての発表を行い、「適性があるものがリーダーになる」「俺について来いというリーダーのタイプは?」「民主的な全員一致の意思決定は?」などの是非をグループで討議、発表しました。若手先生グループの「取次ぎとしてのリーダーシップ」の発表が注目されました。更に「神様から見たおカネとは」、「信心にビジネス感覚を取り入れてはいけな

い、「迷い信心とおカネ」など教祖のみ教えの紹介で締めくくられました。

参加者のアンケートから、その感想を紹介します。

○今後の仕事の参考になった、今後もこのセミナーを開催すると良いと答えている方が大部分の十四名おられ、今後も参加したいと思われるようです。

○開催を希望する回数は、年一回～二回がいい。

○今後取り上げて欲しいテーマをメニューから選んでもらいましたが、希望が多いものは、「ここが違う『金光教スタイルの損得勘定』」、「みんなの『やりたい』を実現する『ビジョンマーケティング』」、「やる気を高める『モチベーション』の上げ方」などでした。

今後の展開への意見として、参加者個別の問題へのアドバイスをすることや、参加者を如何に増やしていくか、などへの配慮を希望されています。信徒の皆さんからも周囲へ働きかけしていただき、参加の輪が広がって行くことが期待されます。
(小田原教会 辻秀志)



(↓1ページ下段より)

光：祭式や教会に関わる御用も、一緒にやらせていただいていたので大抵のことは分かっているつもりでしたが、いざ自分一人で：となると大変なところもありましたね。何よりお結界での御用はそれまで父任せだったので：。

いつも分からないことは父に聞けば答えが出ましたが、それができなくなりましてので、色々調べながら記憶をたぐりながらの毎日です。でも、そのことが私の身になっていてることを感じます。分からないことがあっても、ぎりぎりの所でヒントが見つかり、お練り合わせをいただいでこままさせていたでいます。今まで何となく「お練り合わせ」という言葉を使ってきましたが、教会長とやらせていただいでからは、「お練り合わせ」をいただくこと、そこに見え隠れする霊のお働きをより大きく実感させていたでいます。(今村則子)

○講話と夕食の会

日時：12月3日(土)
15時～講話
17時～懇親会

会場：神奈川教会

内容：「金光教と私」－私が金光教に入信した訳－
*信心初代の4人の方に入信のきっかけなどをお話いただきます

参加費：講話のみは無料
懇親会参加の方は1000円です

*詳細はチラシ参照

〈な・が・れ〉

『かりん60号』

編集室 M

神奈川山梨教会連合会だより『かりん』が六〇号を迎えました。足掛け十五年に亘って、多くの方々が文章をお送りくださった賜物と感謝申し上げます。

平成十四年から新たな体制でスタートした『かりん』。その当初から編集担当として関わらせていただいでいます。振り返ると、二月に発行した第一号でこの冊子の名称を公募しましたが、二件しか応募がありませんでした。結局、編集委員で知恵を絞って三号から『かりん』という名称となりました。その時に届いた一つは、四ページ下段のこのコラム名「ながれ」として今も残っています。

各集会の報告など連合会の活動紹介はもちろん、単にそれだけで紙面を埋めていくのではなく、「インタビュー」や「かりんの輪」など、連合会に携わる「人」が見えてくるのが当連合会だよりの一つの特徴だと思えます。

それぞれの集会や人を通して現れてくる神様のお働きまで読み取っていただいでいるようお願いしつつ、今日もキーボードを叩いています。

金光教神奈川山梨教会連合会

発行 者 福 田 光 一

〒 221-0057 横浜市神奈川区青木町六一二十五
金光教神奈川教会内